

川崎市におけるケンモンヤガ亜科 Acronictinae 2 種の幼虫記録

横田光邦*・三田村瞬*

A larval record of two species of Acronictinae in Kawasaki City.

Mitsukuni Yokota* and Shun Mitamura*

はじめに

晩秋に幼虫が観察されるヤガ科 Noctuidae ケンモンヤガ亜科 Acronictinae のうち、川崎市内で記録が少ない 2 種について、幼虫を採集した状況や飼育に関して報告する。

採集記録

(1) ウズミケンモン *Acronicta carbonaria* (Graeser, 1889)

[多摩区] 1ex. (終齢幼虫), 多摩区生田緑地, 5-XI-2023, 横田光邦採集

[宮前区] 3exs. (亜終齢幼虫), 宮前区とんもり谷戸, 13-X-2023, 三田村瞬採集

生田緑地では、クヌギ *Quercus acutissima* Carruth. (1862) の 1.5m 程度の高さにある枝の葉上で静止している個体を発見し、採集した (図 1)。飼育したところ最終的に体長が 35mm に達した。蛹化前になると頭部が黒くなり、体色は全体が濃い茶色に変化した。ケンモンヤガ亜科は蛹化前に朽木に穿孔することが知られているため (杉, 1987)、本幼虫の飼育ケースに朽木を入れたところ、11 月 21 日に朽木に穴を掘り潜った (図 2)。

宮前区とんもり谷戸では、クヌギの地面から 20~30cm の低所にある胴吹き葉上に静止している 3 個体を発見し、内 2 個体を採集した (図 3)。飼育したところ、土を綴った繭を作った。

本種は成虫が 5 月と 7~8 月の年 2 回出現し、幼虫の寄主植物としてはクヌギが知られている (岸田ほか, 2011)。

川崎市では、麻生区柿生 (岩田ほか, 2002)、多摩区生田緑地 (中島ほか, 2004) の記録がある。神奈川県内では、秦野市震生湖のクヌギ林にて幼虫が得られている (中島ほか, 2004) にすぎず、記録が少ない。

本種は、環境省レッドリスト 2020 (環境省, 2020) では準絶滅危惧 (NT) に指定されている。



図 1. ウズミケンモン終齢幼虫 (生田緑地)



図 2. 朽木に穴を掘るウズミケンモン幼虫



図 3. ウズミケンモン亜終齢幼虫 (とんもり谷戸)

(2) リンゴケンモン *Acronicta intermedia* (Warren, 1909)

[多摩区] 1ex. (終齢幼虫), 多摩区生田緑地, 16-XI-2023, 三田村瞬採集

生田緑地内の七草峠にあるサクラ *Prunus* sp. の高所の葉裏に静止している個体を採集した (図 4)。飼育したところ、3 日間飼育

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

容器の中を歩きまわり、11月21日に土塊を綴って繭を作った。

本種は成虫が5~6月と8~10月の年2回出現し、幼虫の寄主植物としてはバラ科、ヤナギ科、ニレ科などが知られている(岸田ほか, 2011)。

川崎市では、多摩区中野島(神部, 1986)、多摩区生田緑地(中臣ほか, 2005)、麻生区柿生(山内, 2008)の記録がある。神奈川県内では県央の平野部から丹沢山系の山域(中島ほか, 2004)、三浦半島の横須賀市(中島・坂本, 2018)まで、広範囲に記録がある。



図4. リンゴケンモン終齢幼虫

おわりに

川崎市内のケンモンヤガ亜科として、ゴマケンモン *Moma alpium* (Osbeck, 1778)、ヒメケンモン *Gerbathodes angusta* (Butler, 1879)、オオケンモン *Acronicta major* (Bremer, 1861)、シロハラケンモン *Acronicta pulverosa* (Hampson, 1909)、アサケンモン *Acronicta pruinosa* (Guenée, 1852)、シロシタケンモン *Acronicta hercules* (Felder & Rogenhofer, 1874)、ナンケンモン *Acronicta rumicis* (Linnaeus, 1758)、シマケンモン *Craniophora fasciata* (Moore, 1884)と、前2種を合わせた10種の記録がある。幼虫期の生

態については、いずれも判明しているが、野外での発見例は一部の種を除いて少ない。コナラ *Quercus serrata* Murray (1784) やクヌギを寄主植物としている種類は、ナラ枯れの影響を受けている可能性もあり、その消長について注視していきたい。

引用文献

- 岩田芳美・長瀬博彦・脇一郎・中島秀雄, 2002. 中山修平氏所蔵標本目録. 川崎市青少年科学館紀要 (13): 119-131. 川崎市教育委員会.
- 神部昭夫, 1986. 川崎市北部の蛾類 (I). 神奈川県虫報 (78): 2-15. 神奈川県昆虫談話会.
- 岸田泰則 (編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 II. pp. 170-189. 学研教育出版, 東京.
- 中島秀雄・坂本優介, 2018. 神奈川県昆虫誌 2018 III, pp. 808-809. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 中島秀雄・山本光人, 2004. 神奈川県昆虫誌 2004 III, pp. 1078-1081. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 中臣謙太郎・佐野悦子・成田和子・野澤興一・横田光邦・菅原彰宏, 2005. 生田緑地など川崎市産蛾類目録 (2004) —生物の相互作用の解析に向けて—. 川崎市青少年科学館紀要 (16): 27-38. 川崎市教育委員会.
- 杉 繁郎 (編), 1987. 日本産蛾類生態図鑑. p. 189. 講談社, 東京.
- 山内幹雄, 2008. 柿生蛾類調査報告-I(第三回)ヤガ上科. 神奈川県虫報 (163): 1-47. 神奈川県昆虫談話会.

インターネット情報

環境省, online. “環境省レッドリスト2020の公表について”. 2020. <https://www.env.go.jp/press/107905.html>, (accessed on 2023-December-23).